

復建調査設計 橋梁点検車を自社保有

小田社長

業務の需要増加に対応 事業所連携でフル稼働

復建調査設計（小田秀樹社長）は、橋梁等の老朽化対策や効率的な維持管理に貢献することを目的に「高架道路・橋梁点検車」を導入した。道路管理者が保有する例はあるものの、建設コンサルタント企業が独自に所有するのは珍しい。全国各地の事業所やグループ企業と連携しながら、点検車をフル稼働させ、今後も増加する点検業務需要に対応していく方針だ。



納車された点検車

点検業務を受託するコンサルタントは、レンタルなどに対応することが大半だが、需要増加で点検車を手配するのも難しい状況になっている。これを踏まえ、同社ではいち早く自社保有する方針を固め、メーカーに発注。約1年の歳月をかけて製作し、24日に納車の運びとなった。

点検車はタダノ社製の「BT-200」。概要は、積載荷重200kg、最大作業半径5.1m、対象車3.5トンの3層の大型パレットデッキを搭載し、垂直方向には最大地上高さ7m、最大地下深さ4.4mに対応。下ブームは最大長さ8.21mまで伸びる。点検車の操作に必要な有資格者は本社保全構造部保全技術課の技術者である。小田社長は「点検業務需要に対応するには、点検車の問題がネックとなっていた」と導入に踏み切った経緯を説明した上で「保有することできめ細やかなサービスができるようになった。国や自治体など多くの需要に対応してきた」と全国各地の拠点（事業所等）のニーズをくみ取り、フル稼働させる方針を示した。



車両の無事故と作業の安全を祈願

15人のほか、他の事業所を含めると約20人が資格を取得している。24日には、納車された新車両を初披露するとともに、広島市東区の広島東照宮で安全祈願祭を開いた。神事には小田社長を始めとする同社役員、保全構造部の幹部、社員らが出席し、車両の無事故、作業の安全を祈願した。



建設通信新聞

2015年03月26日 014面 01版 No. 01